本校の研究について

1　研究の方向性として

Ｒ８年度は、**「算数科」を研究教科**とする。

＜研究主題＞

主体的に問いを追究・解決しようとする児童の育成
～　問いをもち、考えを深め合う学習活動を通して　～

○「主体的に問いを追究・解決しようとする児童」とは

・学習問題の解決への**見通しを立て，これまでの学習を振り返ったり見直したりしながら追究・解決**しようとすること。(**教師側の手だて・働きかけが重要**)

・疑問に思ったことをそのままにせず，**「なんでだろう。」「どうしてだろう。」と興味を持ち，自分事として捉えることができること（「なぜ」と思わせる環境作り、授業作り)**。

・問いとは単元で解決する学習問題を中心とし，学習課題や児童の疑問など。

児童が主体的に問いを追究するためには？
⇒問いをもたせるための手だて（発問の工夫など）が必要ではないか？
⇒「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用できないか？

【研究仮説１】

児童が問いを見いだし、課題を明確にすれば、主体的に問いの追究に取り組もうとする児童を育成できるだろう。

① 教師が発問や問題提示を工夫し、児童に問いをもたせることができるようにする。

・教師の発問や教材の提示を工夫することで、児童が自然と問いや疑問をもつ導入を設定する。

・児童がもった問いをもとに、学習問題や学習計画を設定する。

② 児童が見通しを持って問いを追究できるようにする。

・自らの問いについて予想したり学習計画を立てたりする活動を設定する。

・調べ方やまとめ方などを自分で選べるように選択できる工夫をする。

考えを深め合う学習活動を行うには？
⇒考えを深め合うことが“できる”児童像が必要ではないか？
⇒「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用できないか？

【研究仮説２】

思考の言語化を元にした話し合い活動や、自身の意見と他者の意見を比較・検討することを通し自身の考えを整理することで、考えを深め合うことができるだろう。

① 児童が自分の考えをもとに、他者の意見との違いや共通点に気付けるようにする。

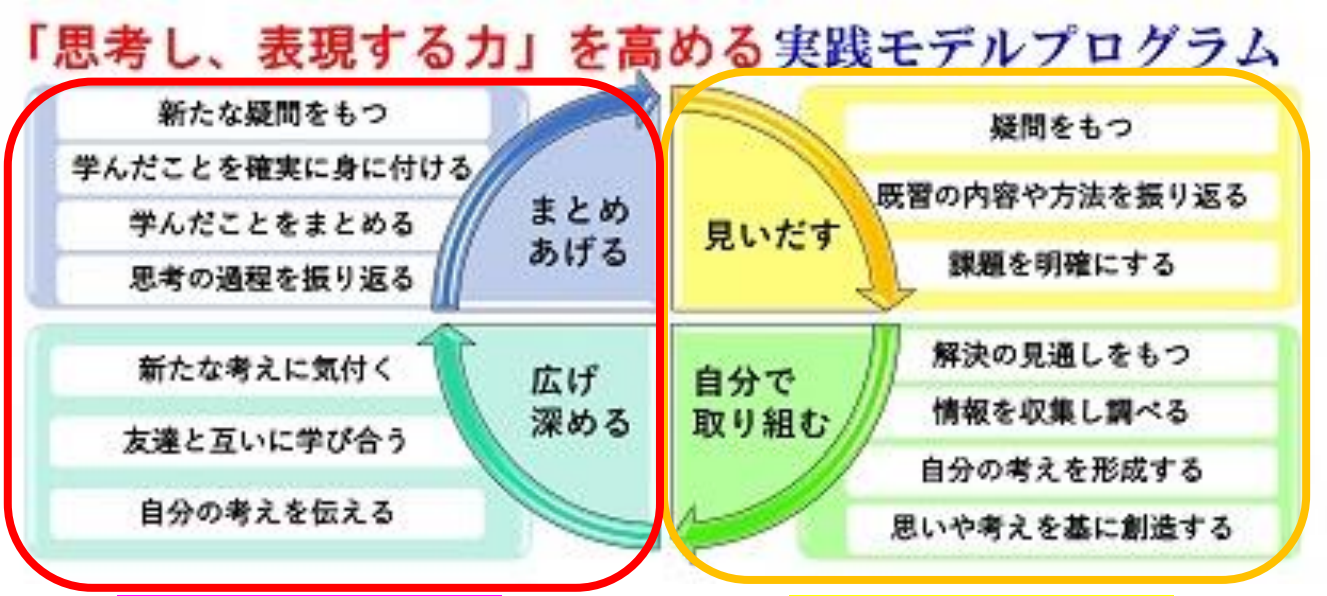
・自分の解決方法や考えを、図や式、言葉などを用いて表すよう声かけする。

・友達の考えと自分の考えを比べながら、同じ点や異なる点を見つけようとする活動を設定する。

② 相手の考えのよさや理由を考えることで、考えをまとめ、よりよい解決方法を見いだせるようにする。

・どの方法が分かりやすいか、なぜその方法が成り立つのかなどを考えさせる時間を設ける。

・話し合いを通して考えを整理し、よりよい考え方や共通する考えを見いだす活動を設定する。



千葉県教育委員会　「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム より

本校が考える「考えを深め合うことが“できる”児童の姿」

児童が、自らの問いを基に問題解決に取り組む中で、次のような姿が見られることを目指します。

① 自分の考えをもち、説明しようとする姿
自分の解決方法や考えを、図や式、言葉などを用いて表そうとすることができる。

② 友達の考えを聞き、違いや共通点に気付こうとする姿
友達の考えと自分の考えを比べながら、同じ点や異なる点を見つけようとすることができる。

③ 考えのよさや理由を考えようとする姿
どの方法が分かりやすいか、なぜその方法が成り立つのかなどを考えようとすることができる。

④ 考えをまとめ、よりよい解決方法を見いだそうとする姿
話し合いを通して考えを整理し、よりよい考え方や共通する考えを見いだそうとすることができる。

これらの児童を育成できる研究を目指して、
①考えをもつ
②比べる
③理由を考える
④まとめる
という**思考の流れ**を児童の姿として設定すれば、児童が思考の言語化する力を育み、課題を達成できると考えた。